

儲かる農業の実現に向けた県南地域の取組方針 令和6年度の主な実績等

1 大規模水稻經營体の育成

○100ha超の大規模水稻經營体・メガファームの育成

○目標の達成状況

指標名	R5年度実績	R6年度目標	R6年度実績
100ha以上 ※100ha未満でも粗収益1億円以上の經營体を含む。	12經營体	14經營体	16經營体
50～100ha	37經營体	38經營体	38經營体
メガファーム事業体の集積面積	104ha	R5年度実績(104ha)以上	116ha

○R6年度の実績や主な取組

- ・100ha以上の經營体が4經營体増加（内訳：稻敷市2、龍ヶ崎市1、美浦村1）
- ・50～100haの經營体が1經營体増加（50ha未満からのランクアップ：稻敷市1、龍ヶ崎市2、つくば市2）
- ・地域計画策定に係る座談会や經營体同士の話し合いの場を設定し、農地集約を支援。
- ・新メガ事業を実施している龍ヶ崎市東部地区で地権者・耕作者間の調整が進み、メガファーム事業体の集積面積・集約率が向上。
- ・栽培講習会等において、高温対策となる水管理や病害虫防除指導、高温耐性品種「にじのきらめき」等の導入を推進。



地域計画座談会における話し合い

○経営感覚に優れた大規模水稻經營体の育成

○目標の達成状況

指標名	R5年度実績	R6年度目標	R6年度実績
スマート農業機械導入經營体数	127經營体	135經營体	158經營体

○R6年度の実績や主な取組

- ・ドローン、自動抑草ロボット、収量コンバインの技術実証や現地検討会開催、當農管理支援システムの導入支援等により、新たに31經營体がスマート農業機械を導入。
- ・稻敷普及ではドローンを活用した湛水直播を実証。リゾケアコーティングによる湛水直播は5haで実施。
- ・つくば普及では有機栽培圃場で自動抑草ロボット「アイガモロボ」+乗用型除草機を実証。これらの技術を用いた有機栽培面積は1.5haで実施。
- ・土浦普及では飼料用米「オオナリ」で収量コンバインデータを活用した施肥改善を指導し、収量が増加（R4 682→R6 806kg/10a）。



ドローン追肥 現地検討会

儲かる農業の実現に向けた県南地域の取組方針 令和6年度の主な実績等

2 日本一れんこん産地における持続可能な儲かる農業の展開

○販売金額1億円以上の経営体数

○目標の達成状況

指標名	R5年度実績	R6年度目標	R6年度実績
販売金額1億円以上の経営体数	3 経営体	5 経営体	4 経営体



病害虫対策等の周知啓発

○R6年度の実績や主な取組

- 支援対象の経営体に対し、販売金額の向上に向け、収量低下の原因となっている病害虫や鳥害の対策技術の効果検証、対策技術の周知啓発、特別栽培農産物認証取得、商談会への参加誘導、加工品開発等を支援。
- これらの支援の結果、目標達成には至らなかったものの、新たな1経営体が販売額1億円を達成し、4経営体が販売金額1億円以上を達成。

○スマート農機等の導入の経営体数

○目標の達成状況

指標名	R5年度実績	R6年度目標	R6年度実績
スマート農機等の導入経営体数	11経営体	12経営体	12経営体



自動給水機の設置

○R6年度の実績や主な取組

- ドローンによる農薬散布、追肥の効果検証を兼ねた実演会を開催。慣行の方法と比較して省力化を確認できたものの、導入費用を課題に挙げる経営体の意見が聞かれた。
- 自動給水機のほ場への設置を支援し、導入経営体に対し、導入の効果を調査し、遠隔ほ場の水位を確認するために移動する必要がなくなることによる省力効果が大きいことが明らかとなった。
- トラクターへの後付け自動操舵システムの導入効果の評価を行い、運転操作技術の熟練者、未熟者共に作業時間を削減できることを確認した。

儲かる農業の実現に向けた県南地域の取組方針 令和6年度の主な実績等

3 地域農業を牽引する儲かる園芸経営体の育成

○販売金額1億円経営体の育成

○目標の達成状況

指標名		R5年度実績	R6年度目標	R6年度実績
かんしょ	集積面積	14.5ha	17.0ha	15.8ha
グラジオラス	採花率	55%	65%	60%
みつば	面積	0.81ha	0.92ha	0.94ha
こまつな	面積	2.5ha	2.5ha	3.1ha



かんしょの2本同時マルチ展張

○R6年度の実績や主な取組

(かんしょ複合経営体)

- メーカーとともに生分解性マルチの実証圃を設置した。生分解性マルチは単価が高い一方、作付後の労力が軽減されることから、今後も継続して3ha程度の利用が見込まれる。
- 輪作品目であるばれいしょの面積拡大により、販売金額は向上した。

(グラジオラス複合経営体)

- 穂やけの軽減にかん水が重要であるため、土壤水分のモニタリングを行ったところ、土壤水分率が25%以上であれば、穂焼け症状等の生理障害の発生が少なくなることが示唆された。
- 市場の需要に対して全国的に切り花の供給量が少なかったため、単価が向上し販売金額も向上した。

(みつば複合経営体)

- 栽培環境データから病害発生要因と考えられる項目（飽差、湿度）と時期を抽出し、明け方の変温管理等により湿度管理を実施したところ、春先の病害（べと病）を抑制することができた。適切な栽培管理ができたことで出荷量が増加し、販売金額も向上した。

(こまつな複合経営体)

- GAP認証アドバイザー事業の活用によりJGAPの個人認証を取得することで、販路拡大につながった。
- 経営分析の結果、材料費の割合が高く、また土壤診断結果ではリン酸が過剰だったため、減肥を提案することで収量・品質は落とさず材料費の低減につなげた。
- パイプハウス面積が増加することで、出荷量が増加し販売金額が向上した。



みつばの環境制御機器



儲かる農業の実現に向けた県南地域の取組方針 令和6年度の主な実績等

4 水田の有効活用の推進

○水田高収益作物の導入面積

○目標の達成状況

指標名	R5年度実績	R6年度目標	R6年度実績
水田高収益作物の導入面積	1,723ha	1,749ha	1,834ha

○R6年度の実績や主な取組

- ・高収益作物の導入面積の拡大にあたっては、地域農業再生協議会やJAと連携した導入の推進や、作付面積拡大に向けた事業紹介や技術指導等による支援、畑地化促進事業の活用推進（れんこんの面積が最も大きい）、企業参入や基盤整備に伴う導入推進等を行った。
- ・抑制カボチャの実証圃を設置し、水田における栽培可能性や収益性を検討した。
- ・基盤整備等に合わせ、高収益作物等の導入に向けた支援や畑地化を推進した。



水田高収益化作物実証圃の現地巡回
(抑制カボチャ)

○新規需要米（米粉用米、飼料用米、WCS用稻、新市場開拓米（輸出用米））の導入面積

○目標の達成状況

指標名	R5年度実績	R6年度目標	R6年度実績
新規需要米の導入面積	6,029ha	6,000ha	4,968ha

○R6年度の実績や主な取組

- ・R7年産新規需要米の作付拡大に向けて、市町村及び地域農業再生協議会と連携し、生産者向け説明会の開催を推進した結果、龍ヶ崎市、取手市、つくば市、守谷市、稲敷市、つくばみらい市、美浦村、利根町の8市町村で開催に至った。
- ・説明会では、「新規需要米収益シミュレーター」を用いて、具体的な金額を示した説明や、個別の課題に対する経営試算の支援を行った。
- ・新市場開拓用米（輸出用米）は、R5年産面積199haに対し、R6年産は296haと1.5倍に拡大した。また、新市場開拓用米における集荷業者との新規契約が増加し、R6年産では19経営体（66ha）が新たに取り組んだ。



生産者向け説明会の開催



経営試算の個別支援

儲かる農業の実現に向けた県南地域の取組方針 令和6年度の主な実績等

5 有機農業の推進

○有機農業の取組拡大

○目標の達成状況

指標名	R5年度実績	R6年度目標	R6年度実績
有機JAS認証 取得面積	198ha	208ha	205ha

○R6年度の実績や主な取組

- 茨城県有機農業実態調査（R6.3現在）により、有機JAS認証取得面積198haを把握。有機農業の取組面積は332haで、有機農業取組者は124経営体。野菜が7割を占める。
- 技術の実態把握や有機農業に関心のある経営体間での技術交流の場の提供、有機農業関連事業の活用の推進（有機JAS認証取得や機械・施設・資材等の導入利用等）等を実施。
- 環境保全型農業直接支払（国補）は、管内の有機農業面積173haに対し、掛かり増し経費を支援。
- R5年度から開始したいばらきみどり認定（環境負荷低減事業活動実施計画の認定）は、R6年度は12件を認定（計24件）。
- 市町村における有機農業産地づくりの取組支援により、管内2市（石岡市・かすみがうら市）で「有機農業実施計画」の策定とオーガニックビレッジ宣言を行った。オーガニックビレッジ宣言2市において、試行的に地域ぐるみで実施する有機農業の取組を推進。



有機農業技術交流研修会の様子



オーガニックビレッジ宣言（石岡市・かすみがうら市）

※オーガニックビレッジ：有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ地域ぐるみの取組を進める市町村のこと。

儲かる農業の実現に向けた県南地域の取組方針 令和6年度の主な実績等

6 常陸牛の生産拡大

○子牛登記頭数の拡大

○目標の達成状況

指標名	R5年度実績	R6年度目標	R6年度実績
子牛登記頭数の拡大	1,051頭	1,040頭	892頭



○R6年度の実績や主な取組

- 高品質常陸牛生産対策事業により、ゲノミック評価を活用した高品質な繁殖雌牛の保留を支援。管内繁殖農家7戸において、高品質な繁殖雌牛14頭が導入された。
- R2年度からR4年度に実施された優良繁殖和牛群整備対策事業により導入された能力の高い牛について、6戸13頭から採卵を行い、受精卵を活用した能力の高い子牛生産を支援。
- 新たな担い手の確保、育成のため「新規繁殖和牛経営入門講座」を開催。農家体験実習を含む全8講座を実施。新規就農希望者5名が参加し、内4名が規定の修了要件を満たし修了。新規就農に向け、基礎知識の習得や、県内繁殖農家との交流が図られた。また、受講後、修了者1名が県南地域で新たに雇用就農を開始した。

新規繁殖和牛経営入門講座